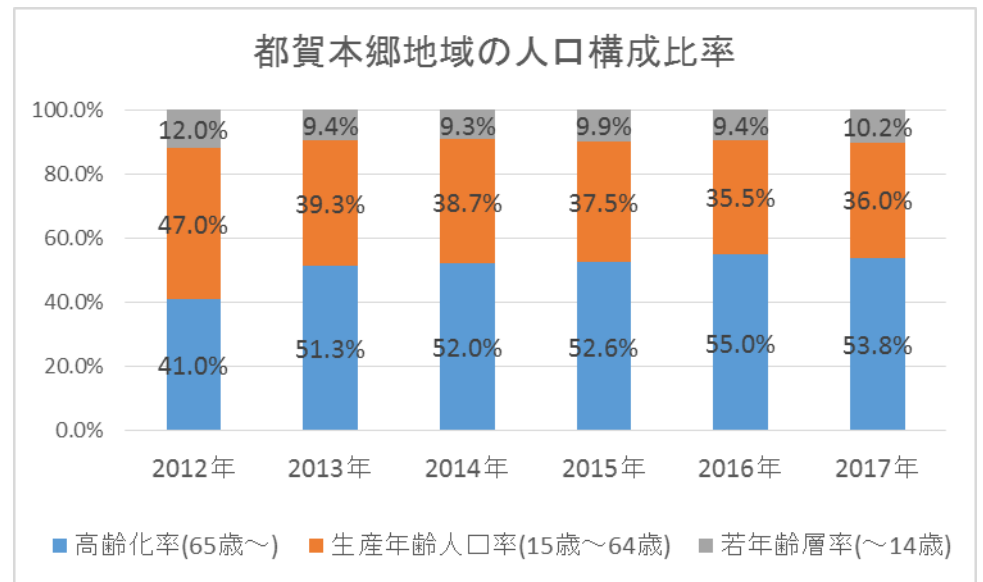


都賀本郷地区の現状

- 都賀本郷地区は、平成の大合併以前は旧大和村の中心であった。
- 平成 16 年より、連合自治会制度を設け、コミュニティによる地域振興を図る
 - 平成 29 年人口 314 人、高齢化率 53.8%
 - 急速な人口減少により、食堂や商店の閉店が相次ぎ、衰退が目に見える形

組織

- 平成 16 年 8 月 27 日時点の都賀本郷地区全住民及び関係住民をもって構成する「都賀本郷連合自治会」
- 平成 28 年度から美郷町地域自立促進特別事業に取り組んでいる



【支援開始時点の課題】

(1) 「小さな拠点づくり」の視点から見た問題点

- ① 生活機能の確保⇒ (小売店の閉店、葬儀や自治会活動が困難、利用されない公共施設の老朽化等)
- ② 生活交通の確保⇒ (JR 三江線の廃線、バス・タクシー事業者との連携による住民の移動手段の確保等)
- ③ 地域産業の振興⇒ (農業の担い手減少、地域内就労者の減少による防災面への不安、サービス産業の衰退等)

(2) 地域活動の視点から見た問題点

- ① 活動から収益が生まれにくくなっており、継続性が懸念される
- ② 活動の担い手確保が課題
- ③ 事務局機能の必要性

支 援 内 容

- 地域の現状把握とこれからの地域づくりにおける主要テーマの抽出
- 4つの主要テーマごとの検討(ワークショップ)
- 先進地視察研修における知識導入と共有
- スタッフの派遣による現地支援(調査、イベント試行、活動検討)
- 潜在する知恵と技術の抽出
- 小さな拠点づくりにおける核施設としての「笑学館」におけるグループ活動の検討

支 援 成 果

① 地域振興のために、4つの主要テーマを導き出し、これを共有した。

【1】町並み整備(景観づくり)と利便性の確保
【2】産業・雇用対策

【3】高齢化の進行とコミュニティ
【4】交流事業の推進

4つのテーマから、地域振興を具現化するための検討を支援した。具現化する手段として、高齢者ふれあい施設「笑学館」での活動を中心に検討を行った。

商店の閉鎖など、住民どうしが寄り合う場がなく、気軽に話す機会が減少していた。

住民どうしが、お互いに知らないことがたくさんあった。

「笑学館」の活用について、住民が「できない壁」をイメージする部分があった。

「笑学館」は、高齢者の集いの場から、小さな拠点づくりの活用場へ機能の拡大が可能。

地域内では、閉店や閉鎖が相次ぎ、急速に進む衰退を目の当たりにしている。

② 話合いやヒアリングを通して、お互いの思いを知り、共有する機会を持つことができた。

③ 住民どうしで知らなかった情報が発掘され、お互いの知恵や技術から可能性を発見することができた。

④ 「笑学館」の活用について、「やってみよう」という機運が醸成された。

⑤ グループ活動への実践が具体的に検討され、「はじめてみよう」という足がかりができた。

⑥ 地域内に新たにオープンする民宿もあり、地域内での連携の可能性の視野が芽生えた。

残された課題

- 「笑学館」の活動計画をもとに、運営に関するプランの作成。(人と資金の問題)
- 主要テーマの中で、検討が未着手である「地域の景観づくり」についての検討。(空き家対策と町の美化)
- 高齢者対策としての、健康長寿のまちづくりへの思いがあり、その具体的検討。「健康で長生きできる町」への環境整備
- 住民が持っている「知識」や「技術」をさらに発掘し、産業づくりへと成長させる仕組みづくり。(潜在する知恵や技術、昔の暮らし等から新しい発見をし、産業化への実践を行う)

【総括】

- 現状では小さな拠点づくりへの関心の高まり、地域の将来を考える機会も多くなってきている。
- 「笑学館」については、運営する人の賃金の問題が大きく、来年度は地域おこし協力隊の導入を町へ提案する方向。
- 小さな集落で成功例をつくり、隣接する地区との連携も模索し、事業効果を上げていく必要がある。
- 参加者や地域活動を支えているのが主に高齢者であり、次年度「健康長寿をテーマとした環境のデザイン」の検討を行う。